

(ICTを活用した新たな街づくりの紹介－3)

新居浜市ICT街づくり推進事業 IDを活用したバリアフリー観光・移動、避難・救護システム (愛媛県新居浜市)

【概要】

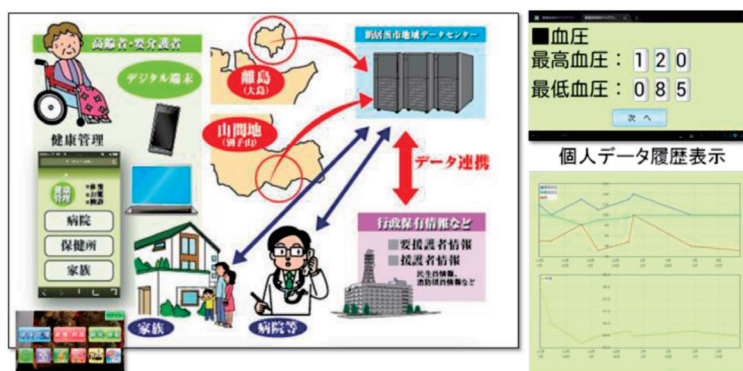
新居浜市が抱える、「少子高齢化」、「災害多発地域」、「都市・生活機能の分散」という地課題を解決するために、ICTを活用し、高齢者や障がい者を含む全ての人が安心して暮らせる、健康・防災・観光の各システムを統合した「ICTバリアフリーシステム」を構築し、高齢者・障害者のみならず誰でも平時・有事に関わらず、安心して健康に過ごせ、安全に観光できる街づくりを行うことを目標とし、その運用やルールの確立を検証した。

【コラム】

本事業では、平時と災害時などの有事との速やかな切り替えにより、高齢者・障害者を含むすべての人に安心して暮らせるICTバリアフリーシステムおよび体制を構築した。具体的には、WebアプリケーションとICTインフラを活用することにより、平時では健康管理サービスを高齢者・障害者等に、地域情報などを観光客に提供し、風水害、地震災害等の有事には、速やかに緊急避難、救援依頼などのサービスに切り替えることが可能なシステムを構築した。

(1) バリアフリー健康管理システム

バリアフリー健康管理システムは、健康管理Webアプリを開発し、高齢者でも利用しやすいユーザーインターフェイス(UI)を設計し、利用者情報を新居浜市地域データセンターに蓄積、援護者となる社会福祉団体とデータ連携し、新居浜市、保健センターも含めた複合団体で利用することにより、病院が設置されていない離島、山間部に住む高齢者を対象に、ICTを活用し本人のみならず、家族、介護者等が健康管理を行えるシステムです。



今回の実証実験では、データベース化された高齢者の健康データを基に、新居浜市社会福祉協議会協力の下、行政、民生委員、保健師なども加わり高齢者の健康測定から各人の健康に関する検討会・指導までの体制がほぼ確立でき、僻地での高齢者健康管理の在り方が実証された。

(2) バリアフリー避難・救護システム

バリアフリー避難・救護システムは、緊急時・災害時に高齢者などがスマートフォン等のモバイル端末を通じ、救援依頼が通知されるシステムです。また、位置情報に基づいた最適な避難所への誘導システム、災害情報配信機能も兼ね備えている。

また、これまで市民には公開されなかった河川のリアルタイム水位画像がモバイル端末で確認することが可能である。



(3) バリアフリー観光・移動システム

バリアフリー観光・移動システムは、障がい者や高齢者、市外の観光客を対象に、スマートフォンの持ち歩きを想定したシステムです。位置情報など利用者情報と地域・観光情報、バリアフリー情報等のデータを連携させることにより全ての人に優しいサービスが提供できます。



(4) 成果と今後の展開

本事業では、開発したシステム単独の運用ではなく、新居浜市が運用中の公式アプリと連携した運用を行った。これにより、公式アプリ利用中の多くの市民に対し本システムを利用していただいたと同時に、公式アプリのダウンロード数アップにもつながり相乗効果を得た。スマホ用アプリとHTML5webアプリの連携で、システム面、操作性にも大きなメリットがあった。

今後の展開としては、引き続き、利用者の意見を基に各システムのブラッシュアップを随時行い利用者の利便性を向上させると共に、特にバリアフリー健康管理システムでは、山間地「別子山地区」における高齢者健康管理事業を社会福祉協議会の協力を得ながら継続し、僻地における健康管理体制の確立を目指します。

(5) 制作費

システム構築費及び検証費：約70,000千円

維持費：約1,000千円／年

(問い合わせ先)

株式会社ハートネットワーク 事業局 伊藤 直人

愛媛県新居浜市坂井町2丁目3番17号

TEL:0897-32-7777 FAX:0897-32-6789

e-mail:n-ito@hearts.ne.jp